

〔提 言〕

会員の学びを支援します！

北里大学看護学部

鳥居 央子

この号が皆様のお手元に届く頃には、第10回国際家族看護学会まで3か月足らずとなっていると思います。発表予定の方は、準備が整いましたか？同国際学会の演題の登録は700近くになり、本学会員からなる企画委員会はうれしい悲鳴をあげています。

本学会研究促進委員会では、この国際学会に多くの方々が発表して下さるよう、昨秋の名古屋の学術集会の折に、演題登録と抄録作成についてのセミナーを開催し、70名余の参加を得ました。日々、家族看護の活動を実践しているけれども、発表までは考えられないという方々に、国際学会も、そこでの発表も、決して遠いことではないのですよ、という意味をこめてのセミナーでしたが、参加者からは「私にもできそうと感じた」という意見が多く寄せられ、多数の演題登録の一端を担えたように思います。

さて、これまで、本学会の「セミナー」として、いろいろな地域や話題での開催があったのを記憶に留めている会員も多いことと思います。これまでに行われたものに、家族看護学セミナー、教育セミナー、実践研究セミナーがあります。これらは、2010年春まで、研究・教育促進委員会（委員長は原礼子元理事）が企画・実施してきました。

家族看護学セミナーは、家族看護に興味がある全国の方々（会員に限らず）を対象として、家族看護学の基礎的な知識を提供し、演習を通して実践で使える技術を身につけてもらうことを目的に、各地で開催しました。毎回、各地域の指導的立場の先生が中心となり、7回開催され、合わせて300人以上の方が参加されました。これまでに本学会全ブロックでの開催がなされ、全国くまなくとはいえないまでも、かなり広くまで、家族看護の知識や技術が浸透したといえるでしょう。

次の教育セミナーは、家族看護学の話題提供（専

門看護師の教育について）や基礎的な事柄についての講義（事例検討、家族インタビュー）を、学術集会の初日に会員に限定せず誰でも参加できるようにしたもので、これまでに3回行い、各回約100人が参加されました。学術集会時の参加者へのサービスとして認知されていることから、今後は、学術集会での基礎講座として位置付けることもできると思います。

最後の実践研究セミナーは、実施が他の2セミナーより遅れましたが、これまでに2回、主に現場のナースである会員を対象に、事例研究についての基礎的な講義を行い、かかわった事例をていねいに見ながら研究としてまとめていけるように演習を行いました。研究に取り組むきっかけになれば、という思いからの企画でしたが、参加者の中には、講師と連絡をとりながら、次の学術集会での発表を果たした方もいて、会員のニーズに合った研究に関するセミナーの意義は大きいと感じます。

以上の3セミナーを行ってきて、家族看護学の基礎的な知識や技術は、各地域で中心となっている会員に根付き、初心者への啓蒙はそれぞれの地域で可能となったと感じられます。そこで、学会では、さらに一歩進んだ、現任教育としてのセミナーと、多くの方が日頃の実践を研究としてまとめられる手助けを行っていかうと考えています。

先に紹介した研究・教育促進委員会は、今年度から、教育促進委員会と研究促進委員会に発展し、皆様の実践・教育と研究をそれぞれ支援することになりました。研究については、先に述べたように、すでに、国際学会の演題登録支援を行いました。今後、両委員会からのお知らせに耳を傾けるとともに、ご希望もぜひお寄せください。会員それぞれの家族看護の発展に役立てられる企画を、提供していきたいと思ひます。